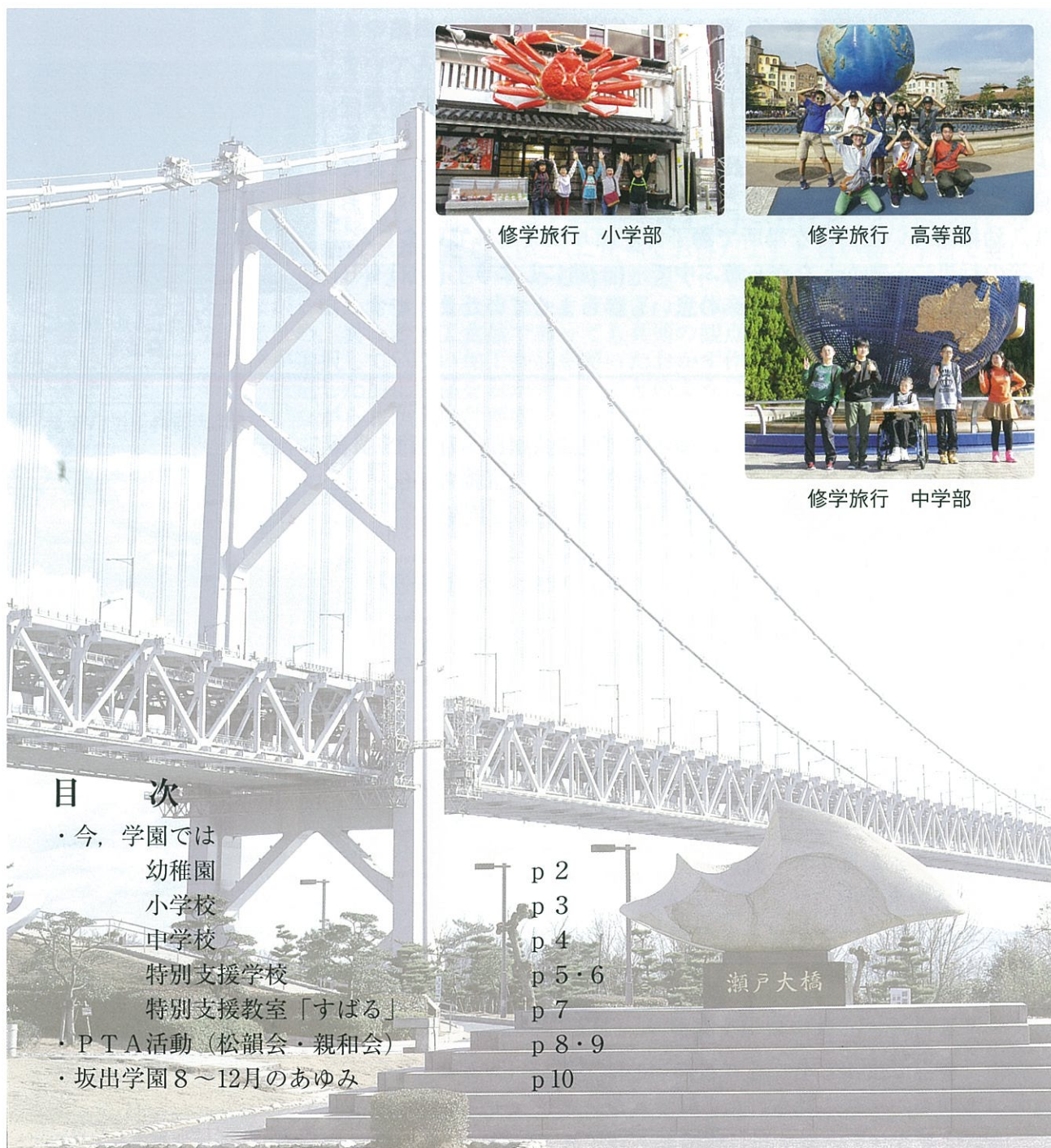


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第58号

2017.12



修学旅行 小学部



修学旅行 高等部



修学旅行 中学部

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 中学校 p 4
 - 特別支援学校 p 5・6
 - 特別支援教室「すばる」 p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8・9
- ・坂出学園8～12月のあゆみ p 10

秋を感じながら

獅子舞遊び

園庭の木々の葉の色の変化に気付いたり、落ち葉やどんぐり、まつぼっくりをままごとの料理に使ったり、秋の心地よい風を感じながら園庭に出て思いっきりおにごっこを楽しんだり、子どもたちはそれぞれに秋を感じながら遊び、秋を満喫していました。

10月にはいろいろな地域で秋祭りが行われ、幼稚園にも獅子が来てくれて獅子舞を間近で見ることができました。迫力ある獅子舞に釘付けになり、早速「獅子、作りたい!」とティッシュの箱やカラーポリ袋や不織布を使って自分の獅子を作ることを楽しんでいました。友達と一緒にになって獅子の中に入り、息を合わせながら舞ったり、大きなお兄ちゃんの動きをまねてかっこよく舞ったりすることを楽しむ姿がたくさん見られました。バケツや段ボールを太鼓に見立てて、獅子の横でたたくことに楽しさを感じている子どももあり、幼稚園のいろいろな場所で獅子舞が繰り広げられていました。季節の行事に心動かしながら遊ぶ中で、「一緒にしよう」「明日もしたいね」と一緒に楽しむ友達への思いも膨らませていたようです。

コンコンチギ!
獅子舞って楽しいな!



かっこいい獅子になるぞ!

遠足

今年の遠足はマリナーに乗って『児島公園』へ行きました。朝、坂出駅へ登園する表情からわくわくした気持ちが伝わってきました。今年の10月は雨が多く、遠足が一度延期になったけれど、この日はとってもいいお天気でした。

瀬戸大橋を渡って児島駅に着くと、優しい駅員さんがお出迎え。「おはようございます」と元気なあいさつを交わしました。広い公園にはどんぐりの木や銀杏の木がたくさんあって、みんなで拾うことを楽しみました。

待ちに待ったお弁当の時間。広い原っぱで食べるお弁当は最高です。友達とおしゃべりを楽しみながら、お腹いっぱいいただきました。

異年齢の子どもたちが混ざり合って遊ぶ姿もたくさん見られ、遊具で遊ぶとき、小さい友達に「~してごらん」と優しく教えてあげるお兄さんお姉さんの姿もあり、頼もしく感じました。長いすべり台を友達と列を作って滑ったり、大きな遊具を登ったり、原っぱで夢中になって虫探しをしたりと自然の中で思いっきり楽しむ子どもたちの笑顔がたくさん見られた1日でした。

瀬戸内海の上にいるよ



すべり台、とっても長いね

研究主題

学びに熱中する子どもの育成

—学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり—

本校では、今年度より上記のテーマを設定し、学習内容に興味をもち、課題解決に向けて他者と協働しながら考え続ける子どもづくりに努めています。その授業づくりでは、これまでの研究成果を生かしつつ、学習意欲の視点で検討しながら、場面に応じた働きかけを取り入れています。今年度の教育研究発表会は、1月25日（木）、26日（金）に行います。先生方のご参会、また保護者の方のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

■ ◆ ■ 研究授業 ■ ◆ ■

6年 家庭科「私の朝食大作戦 めざせ！パワー&レベルアップ」

朝食は、登校や出勤までのわずかな時間で調理しなければならず、食事の内容や量が不足しがちで、子どもがその調理に携わりにくい等の課題があります。本題材では、朝食作りの目標を自分自身で設定したり、家族に相談しながら一緒に設定したりして、子どもが朝食への関わり方を主体的に改善できるようにしたいと考えました。そこで、栄養バランスの整ったおかずを手際よく作ろうと、材料や調理法を選んだり、自分なりの工夫を加えたりする力の育成を目指しました。

本時の導入では、朝食のおかず作りに使おうと選んでいる加工食品（ハム、ベーコン、ウインナーソーセージ）ごとにグループを構成し、それぞれ、4種類の商品からどれを選択するかを話し合う場を設定しました。「AとBは同じウインナーだけど、Aは小分けになっているのいいね」や「量と値段で考えたら、BはAに比べてお得だよ」と買い物の学習で身に付けた観点を基に考えたり、「Cは小さいからいためる時間が短く、朝ごはんに向いてると思うよ」等と朝食作りを想定しながら話し合ったりしました。そして、全体交流では、どのような理由で商品を選んだのかを表にまとめ、異なる加工食品であっても共通の観点や新たな観点があることを共有していくことで、自分が選択していない加工食品を使ったおかず作りについても関心度が高まってきました。その後、決定した加工食品をおかずとしてどのように調理するのか、自分の目標や能力に合った調理法を選びながらおかずの計画書を完成していきました。

夏休みには、計画書通りに朝食を作り、「前日から準備を整えておくことの大切さを実感した」や「同時調理は考えていたよりも難しく、毎朝作っている母に感謝したい。自分もできることを増やしていきたい」等の感想や「夏休みは、毎朝おかずを一品作ることを続けた」というレポートがあり、家庭生活をよりよくしようと自主的に実践する姿が見られました。

芳我 清加



【実際の商品を比較する】

2年 音楽科「様子を思い浮かべて吹こう～『かえるの合唱』『かっこう』～」 溝渕 佳子

本題材では、『かえるの合唱』や『かっこう』の歌詞や曲想から、かえるやかっこうの鳴いている情景を思い浮かべ、強弱や速度、リズム等をさまざまに変化させながら、自分の思いに合うように鍵盤ハーモニカでの演奏を工夫していく力の育成を目指しました。

はじめに、歌詞や曲想からどんなかえるが鳴いているのか、想像を膨らませる活動を行いました。思い浮かべたかえるの情景を鍵盤ハーモニカでどのように演奏すればよいのかという思いを高め、「自分の『かえるの合唱』を工夫しよう」という課題に取り組んでいきました。強弱や速度、リズムを変化させた演奏を聴き、変化の効果を想起した子どもたちは、「怒っているかえる」や「雨の中で遊んでいるかえる」等、思い浮かべたかえるの情景に合うように強弱等をさまざまに変化させて演奏を工夫していきました。そして、考えた工夫を書き込んだカードをペアの友達に見せて、「怒っているかえるを、強さは2、速さは2で吹くよ」「雨の中で踊っているかえるを吹くね。強さは2、速さは3、リズムはタッカで高い音と低い音を使うよ」等と工夫点を伝えてから演奏を聴き合いました。「怒っているなら、強さは3にした方がもっと感じが出そうだよ」とアドバイスしたり、「高い音や低い音を使うのも面白いね。僕もやってみたい」と自分とは違う工夫に気付いて演奏に生かそうとしたりする姿が見られました。互いの演奏を聴き合った後、子どもたちから「もっと様子を表すために、友達と合わせて演奏したい」という意見が出たので、ペアやグループで音を重ねて演奏し、かえるの情景を表す活動を楽しみました。このような活動を通して、自分の思いに合うように演奏を工夫する力を身に付けた子どもたちは、「歌って表してみたい」や『かっこう』でも変えて吹きたいと、新しい課題を見つけて意欲的に取り組んでいきました。



【工夫をペアで聴き合う】

第7回 あじさいフェスティバル(文化祭)が開催されました!

去る11月11日に、**あたらしい(あいのある)じゅうときりつのさわやかないばしょ**フェスティバル、附属坂出中学校の文化祭および70周年記念式典が行われました。午前中の文化祭では**各学年団の合唱や文化部発表**、午後からは**CAN賞受賞クラスターによる発表や記念講演**(佐藤勝彦先生：東京大学名誉教授)が行われました。

【 最優秀研究 青雲賞 】

「**オリーブ〇〇の研究PARTⅡ ～おいしくて栄養のあるオリーブ〇〇は作れるのか～**」

3年：大麻紀真さん 2年：横田義典さん 1年：小林正吾さん

オリーブハマチ、オリーブ牛などはあるけれど、どうして野菜のオリーブ〇〇はないのか、を研究動機にして、昨年に引き続きオリーブ〇〇について探究しました。収穫した野菜の成分を専門の機械で分析して検証するなど、探究のすばらしさや豊富なデータが高く評価され、青雲賞に選ばれました。



【 優秀研究 CAN賞 】

「**植物+音楽=? ～音楽が植物に与える影響とは～**」 3年：細川さん 2年：海野さん 1年：藤川さん
 「**手のあれないオリジナル石けんをつくろう 2**」 3年：佐竹さん 2年：高橋さん 1年：石井さん

【 部門賞 】

課題設定力賞 「**生物生態研究所 ～粘菌でアートはつくれるのか～**」

3年：坂上さん 2年：福井さん 1年：川原さん

課題追究力賞 「**かぜ対策Drink製作所 ～しょうがを使ったかぜを予防できるヘルシードリンクとは?～**」

3年：安田さん 2年：米本さん 1年：春馬さん

表現力賞 「**新しいエネルギーで走る鉄道車両をつくろう!**」

3年：長田さん 2年：三好さん 1年：中川さん

チームマネジメント賞 「**発電システム研究所 ～多く発電できる水力発電とは?～**」

3年：大川さん 2年：藤田勝成さん 1年：藤田晴貴さん

イグ・青雲賞 「**自作(割りばし)ゴム鉄砲でどこまで飛ばせるか?**」

3年：島さん 2年：竹田さん 1年：北岡さん

校長特別賞 「**オリーブ〇〇の研究PARTⅡ ～おいしくて栄養のあるオリーブ〇〇は作れるのか～**」

3年：大麻さん 2年：横田さん 1年：小林さん

※ 他にも16クラスターの研究に研究奨励賞が贈られました。



文化部発表



理科部



吹奏楽部



茶道部

各学年団合唱



3年団合唱

研究主題

「特別支援教育における協働的な学びを支援する授業づくり」

本校では、児童生徒の自立と社会参加に必要な資質能力を育成するために、授業の中で、児童生徒が目的意識をもって活動に取り組み、他者と関わり合いながら学びを深めていく姿の実現をめざしています。今研究では、児童生徒同士の協働に焦点を当て、協働場面の設定方法や、協働場面における支援方法を検討しています。「知的障害のある児童生徒が確実に知識・技能を身に付け、学びを深めるための協働場面とは？」という課題に対して、これまでの目標設定や評価方法を見直し、評価を根拠とした協働場面の設定や支援改善を行っています。

ここでは、9月に実施した研究授業について報告します。

小学部 題材名「はんぶんに分けよう」

本授業は、連続量である液体を半分に分ける学習活動を通じて、量に関する感覚を養うことをねらいとしました。個人で取り組む学習活動を発展させ、友達と半分に分ける学習活動を取り入れました。手順ややり取りの話型を手掛かりに、半分にするための方法や、半分かどうかの正誤をペアの友達に伝える様子が見られるようになり、理解が深まったことがうかがえました。



中学部 題材名「めざせ！丁寧な言い方マスター」

本授業では、丁寧な言い方を取り上げ、日常生活での活用をめざしました。クイズで丁寧な言い方について知識を得た後、ペア学習やロールプレイを取り入れ、友達と関わりながら知識を活用する場面を設けました。丁寧な言い方を互いに評価し合うことや、アドバイスする様子が見られました。ペア学習の流れや、ロールプレイの状況を把握するための視覚的提示が効果的でした。



高等部 題材名「沖縄の民謡に親しもう～オリジナルの沖縄風の音楽を作ろう～」

本授業では、沖縄民謡を題材として取り上げ、沖縄民謡の独特な曲想やリズムを楽しむことをねらい、創作活動に挑戦しました。その際、リズムの変化を表したカードや、話合いの手順を視覚的に示して、まずは一人ずつ一小節を担当し、リズムを考えていきました。その後、グループで検討するという話合いの流れにしたことで、意見を言うことが苦手な生徒も話合いに参加しやすくなりました。



本校では、2月3日（土）に第19回教育研究発表会を行います。講演講師には、文部科学省初等中等教育局視学官の丹野哲也氏をお招きして、学習指導要領改訂に伴う特別支援教育の動向について解説していただく予定です。

各部の修学旅行の様子を紹介します。

小学部



10月26日～27日、5・6年生5名は、関西方面に行ってきました。事前学習では、USJのアトラクションを選んだり、昼食のメニューを決めたり、カップラーメンの具材を選んで作る練習をしたり、写真や映像を見てイメージを膨らませ気持ちを盛り上げていきました。一日目のUSJではお目当てのミニオンたちに会って大興奮。ハロウィンシーズンだったので、お菓子のつかみ取りもできました。たくさんの人混みでしたが予定していたアトラクションは全て制覇し、パレードを観たりおやつを食べたり、満喫しました。二日目は、カップラーメンミュージアムでオリジナルカップラーメンを作りました。練習していったとおりに思い思いのイラストを描き、好きな具材を注文して自分だけのカップラーメンを作って大満足。須磨水族館ではイルカショーやペンギンパレードを見たり、亀やヒトデに触ったり大はしゃぎ。疲れたけど、いいお天気で、とっても楽しめた二日間でした。



中学部



中学部3年生は、10月31日～11月2日まで大阪に行ってきました。昨年度までの見学先を参考に、修学旅行でしたいこと、見たいものの希望を出して前年度から学習を進めてきました。ニフレルでの見学、ダスキンミュージアムでのドーナツ作り、USJでのアトラクション、よしもと西梅田劇場での観劇など、どれもわくわく、どきどきの連続でした。特にニフレルでは、すぐそばをペリカンが歩いたかと思うと、頭の真上を鳥が飛んだり、照明の変化によって水槽や室内の雰囲気が変わったりと、生き物の様々な姿を間近で見ることができました。ドーナツ作り体験では、生地型の抜きをしたり、デコレーションをしたりして、オリジナルのドーナツを作りました。2個をぺろりと食べてしまうほど、作りたてのドーナツはとってもおいしかったです。みんなと一緒に行動するときのルールを守り、元気に仲良く、たくさんの思い出ができた旅行となりました。



高等部



高等部2年生が、夏休みが明けてすぐの9月13日～15日まで東京方面に行ってきました。1年生のときに、北海道・東京・沖縄の候補地の中から自分たちのお薦めスポットをグループごとにプレゼンし合って東京に決まりました。じっくりと事前学習にも取り組み、東京への期待を膨らませていきました。「科学未来館」や「NHKスタジオパーク」「ジブリ美術館」「ANA機体整備工場」何もかもが、テレビや雑誌の中でしか味わったことのない世界に生徒たちは興奮気味でした。中でも二日目の「ディズニースー」はまさに「夢の国」！見るもの感じるものすべてに、感嘆符！キラキラした世界が生徒たちの心に残ったことは言うまでもありません。修学旅行は、学習の場であることも忘れません。仲間を気遣ったり、自分の身の回りの管理をしたり、公共の場のルールを守ったり、そしておうちの人に感謝したりする場にもなりました。旅行を終えて、一回り大きく成長した姿が見られました。



特別支援教室「すばる」の実践紹介

特別支援教室「すばる」で、漢字の習得に困難のあるお子さんに対して行った個別指導の実践を紹介したいと思います。

漢字を書く際、偏と旁や上下が逆になるなど、細部まで正確に覚えて書くことが難しい小学校4年生のA君。「門構え」や「しんにょう」の漢字をバランスよく書くことにも難しさがありました。アセスメントの結果から、A君は不注意傾向があり、文字や記号など抽象的なものの形や空間的な配置を正しくとらえることが苦手ということが分かりました。そこで、漢字を九九のようにリズムのよい唱え歌として声に出して覚えることで、聴覚から字形の記憶を促す指導を行いました。集中して学習できるように『特別支援の漢字教材 唱えて覚える漢字九九シート 初級・中級』（学研）を基に、必要な情報だけをプリントに載せて提示しました。プリントの手本の漢字を見て、漢字九九（「ハムを公園で食べよう」のような唱え歌）を唱えながら空書を数回した後、筆順アプリ『常用漢字 筆順辞典』を使って、iPadの画面上になぞり書きをしました。なかなか正しく覚えることのできなかつた「整」の字は、漢字九九の中の「ハ、ケではらい」のところが強調できるように、イラストに出てくる「刷毛（はけ）」の実物を手に持たせて記憶を強化しました（図1参照）。指導最終日の書き取りテストでは、悩むことなく「整」を正しく書くことができました。

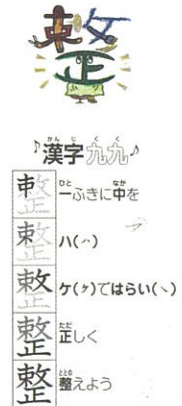


図1：語呂合わせ

バランスよく書くことが難しい「しんにょう」については、図2のような手本を提示しました。「一番高いところから斜めに点。ちょっと下がって…くねくね（長さの目安として、最初は長く、次は半分、最後は長く）…一度止めて、伸ばしてシュッ・右と左はぶつかるくらいに」と、書くこつ（方向・位置・運動）を言葉や動作で表すことで運筆の方向やバランスを意識できるよう指導を行いました。

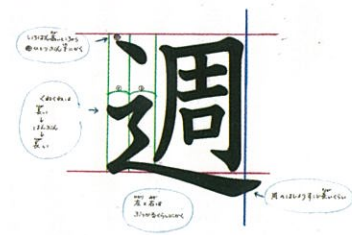


図2：しんにょうをバランスよく書く見本

前述の『唱えて覚える漢字九九シート』は小学校で学習する漢字の教材で、中学校で学習する漢字には対応していません。漢字を覚えることが難しく学習意欲が低下していた中学校2年生のBさんに対する指導では、漢字を自分が覚えやすいパーツに分け、オリジナルの語呂合わせを考えて復唱することで、字形の記憶を促すことにしました。また、Bさんは言葉だけの指示や説明を理解する力に弱さがあるので、語呂合わせに合ったイラストも自分で考えて、視覚からも漢字の形をイメージしやすくしました。語呂合わせやイラストを用いて自分なりに漢字に意味付けをして覚える工夫を学び、漢字を覚えるための自分に合った方略を身に付けることができました。

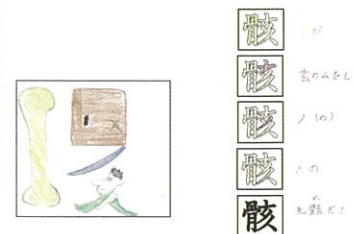


図3：考えた語呂合わせとイラスト

幼稚園より

11月8日（水）、幼稚園リズム室にてミニ運動会が行われました。

まずは園児たちが秋季大運動会で踊ったダンスを準備体操として元気いっぱい踊り、続いて園児と保護者が力を合わせてボールを運ぶサンドイッチ玉運びやけんけんリレー、パン食いリレー、玉入れなどが行われました。

その後行われた園児の綱引きでは、園児や先生が靴下を脱ぎ、裸足で参戦するチームも。保護者対抗の綱引きでは白熱するあまりリズム室の出入り口から外へ出てまで綱を引くお父さんもおり、大盛り上がりでした。そしてその熱気が落ち着いた頃行われたのが「うちのひとはどこだゲーム」。黒い布で姿を隠し、手だけを出した保護者の手を触っておうちの人を探し当てるといものですが、なんとほぼ全員正解だったのです。答え合わせで対面したときの皆のうれしそうな顔。ゲームを通して園児と保護者の絆がより一層深まったのではないのでしょうか。

当初園庭で実施される予定があいにくの雨のためにリズム室での開催となりましたが、そんな悪天候を吹き飛ばす、とても楽しいミニ運動会になりました。



「パン食いリレー」



「つなひき」



「うちの人はどこだゲーム」

小学校より

毎年恒例！ 土曜メンテナンス

10月14日（土）、恒例の土曜メンテナンスが行われ、総勢38名の方に参加していただきました。例年通り様々な箇所の修繕に加え、今年はジャンピングボードを新たに作成し、また低学年用の踏み台も作りしました。心を込めてきれいに作ったので、来年また作り直さなければならぬくらい、どんどん使ってくれたらうれしいです。



気分は財務大臣！（財政教育プログラム）

10月21日（土）、OYG主催で財政教育プログラムが実施されました。23組の親子に参加いただきました。財務省四国財務局の局長においでいただき、タブレットを使った予算編成など、親子で国家財政を真剣に学びました。難しい題材をおもしろおかしく学ぶことができ、財政が身近なものになる良い機会となったのではないのでしょうか。



中学校より

土曜メンテナンス

運動会をひかえた9月9日(土)、土曜メンテナンスを行いました。

本年度の松韻会は「ALL松韻会の絆の確立」をテーマに掲げており、中学校だけでなく幼稚園、小学校の皆様からもご協力を頂き約50名の参加者で実施しました。

大勢の人が集まる運動会が、安心・安全に実施できるようメンテナンスを行いました。

きれいになっていく喜びを分かち合い、親子はもちろんのこと保護者同士の交流も深まった充実した時間となりました。



市PTAソフトボール大会

12月10日(日)市Pソフトボール大会が行われ、松韻会スポーツ活動の一環として参加しました。

10月からの練習の成果のおかげで、2年ぶりに優勝をすることができました。好守あり好打ありで、みんなが活躍することができた大会になりました。

大会当日はもちろんのこと、日曜に行われる練習も楽しい時間を過ごすことができました。毎年行われますので、お気軽にご参加ください。



特別支援学校より

救命救急法講習会

研修部では毎年、坂出消防署の方に依頼して救命救急法講習会を開催しています。

今年度は18名の保護者の方に参加していただき行いました。初めての参加の方も毎年参加してくれている方もいましたが、忘れていたことが多く、実際にそういう場面に遭遇したときに落ち着いて対応できるようにするためには、1年に1回の講習会が大切だという感想が多くありました。

今後とも続けていきたいと思っておりますので、たくさんの方のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。



親和会

70周年記念式典が行われました

11月11日(土)に本校体育館において、来賓、卒業生や在校生合わせて約600人が出席して、創立70周年記念式典が行われました。高木校長先生から、「生徒一人一人が個性豊かに生き生きと学ぶという先輩たちが築いた伝統を守り、80周年、100周年とさらなる発展を目指していきたい」とあいさつをいただきました。また、同窓生から、天体ドームと望遠鏡の修理・補修をしていただき、授業や地域に開いて天体観測を行えるようにしていただきました。また、式典後には、本校卒の佐藤勝彦先生が「宇宙はいかに始まったのか?」と題した記念講演を行い、生徒たちは様々に宇宙への思いをはせる時間となりました。



中学校

附小フェスタが行われました!

11月18日、毎年恒例の附小フェスタが行われました。今年度はこれに合わせて、初めてのオープンスクールも開催したために、いつも以上に多くの観客を迎えての会になりました。最初は、全校生が一同に会しての全校合唱です。415人がステージに並ぶ様は、観客を圧倒する迫力でした。「元気! 勇気! ちから」「OMOIYARIの歌」「Wish~夢を信じて~」の3曲を熱唱した後は各学年の活動や発表です。

1年生は親子で昔ながらの冬の遊びを楽しみました。こまや凧に協力して絵を描き、完成したこまを体育館前で回して遊びました。2・3年生もおうちの人と協力しての作品作りです。オリジナルキャンドルやランプシェードを作りました。4年生は、プロの俳優の指導を受け、オリジナル劇「チョイチョイ星人がやってきた」を演じ、5・6年生は恒例になりつつある、「うどんのお接待」と「附ッザニア」。どの子も笑顔いっぱい。おうちの方と楽しい一時を過ごすことができました。



小学校

特別支援学校

あいさつ運動

高等部では実際の職場で働く現場実習や卒業後の社会生活において、自ら挨拶をしたり、元気に挨拶をしたりする習慣を身に付けるために学校生活の中で意識して挨拶の指導に取り組むようにしています。その一環として毎学期、「あいさつ運動」と題して、より挨拶を意識する期間を1週間設けています。

「あいさつ運動」では毎回意識するポイントを周知して、取り組むようにしています。「大きな声で」や「相手より先に」、「会釈をして」などをポイントにして、先生方にあらかじめ配ったシールを、ポイントに沿って挨拶ができた生徒の氏名欄に貼ってもらい、その合計ポイント上位の生徒を表彰します。

この取組も本格的に始めて3年目ですが、生徒の意識が上がり、現場実習先や学校生活の中でも自ら挨拶をする生徒が増えました。また初めはこの期間だけ頑張る生徒やシールをもらうことが目的の生徒も見られましたが、そんな生徒も、繰り返し取り組むことで定着していき、普段の生活の中でも挨拶ができるようになってきました。

「間」や「雰囲気」など自然と好感もてる挨拶をするのは意外と難しいものです。だからこそ、日常生活の中でごちなくとも積極的に取り組んでいくことで体得できると思います。

現場実習先(会社等)の方からも挨拶ができることはとても大事だとされます。これからも「あいさつ運動」を通して挨拶習慣が身に付くよう取り組んでいきます。そして明るく元気な学校になればと思います。



幼稚園

親子で篆刻づくり

年長児親子で篆刻づくりにチャレンジしました。教えてくださったのは小西園長先生です。園長先生の日展作品をお手本にして作っていました。

篆刻の文字は、自分の名前から決めます。漢字、ひらがな、アルファベットと思い思いに選んでいました。これから自分の作品の一角に篆刻を押ししていくのがとても楽しみです。



保護者座談会 ~上手な叱り方~

年少組・年中組の保護者の方へ、スクールカウンセラーの田中彩先生より「上手な叱り方」についてご講話をいただきました。「残念な叱り方には『手柄横取り型』『タイミング逃し型』『要求底なし型』『気分にもら有り型』『一言余計型』などがありますよ」の言葉に大きく頷いていた保護者の方々でした。

グループでの保護者座談会では「私、余計な一言を言ってしまうわ」「私はタイミングを逃しているかも…」と自分を振り返りながら、談笑されていました。



編集後記

今年の秋は台風が続き、学園運動会の実施について心配されましたが、実施日や内容等を考慮しながら、園児、児童、生徒それぞれが練習してきた成果を発表することができました。臨機応変に対応してくださった保護者の皆様をはじめ、様々な方面からご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。

また、附属坂出中学校は創立70周年を迎え、11月に記念式典が執り行われました。伝統を大切にしつつ、昨今の社会情勢に対応できる子どもたちの成長のために、これからも附属坂出学園が連携をとりながら、一丸となって精進していきたいと考えています。

今後とも皆様方のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いたします。

発行年月日：2017年12月19日

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出小学校内

桑原 育子 (附属幼稚園)

樽本 導和 渡部 岳史 (附属坂出小学校)

小林 理昭 大西 光宏 (附属坂出中学校)

合田 卓生 妹尾 恭子 (附属特別支援学校)